

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-1	少人数指導等教育推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	円滑な学校運営を目指し、児童生徒の学力の向上を図ります。 ALT（英語指導助手）が授業を補助することで、英語授業の内容を高めます。
------------	--

3. 事務事業の実績	<p>(1) 事業の実施内容（令和3年度）</p> <p>○複数指導者による授業を実施するため、非常勤講師を配置しました。 各学級の実態に応じ、学級又は学年を2～3クラスに分け、少人数での授業や、1学級を複数教員で指導する「チームティーチング」を行いました。 ○小中学校7校へのALTの巡回配置 ・英語教員とALTによる複数教員指導を仕組み、英語の授業を充実させました。 ・小学校も中学校も、ネイティブの英語に触れ、より正確な発音を学ぶことができました。</p>
------------	---

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費	22,374,306	60,295,000	62,056,359	65,658,000
② 人件費	300,000	300,000	375,000	675,000
③ 合計コスト ①+②	22,674,306	60,595,000	62,431,359	66,333,000
前年度比（％）		267.2%	103.0%	106.2%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	22,674,306	60,595,000	62,431,359
④ 活動一単位当たりコスト	781,872.6	2,089,482.8	2,152,805.5	2,287,344.8
前年度比（％）		267.2%	103.0%	106.2%
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）				

(3) 活動指標	指標名	教育活動時間			単位：	時間
	指標説明	非常勤講師の週当たりの教育活動時間				
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込	
	実績値	29	29	29	29	

(4) 成果指標	指標名	配置人数		単位：	人	評価：	+
	指標説明	少人数指導非常勤講師配置人数					
	目標値の設定方針	配置規定により算出					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	目標値	11	11	11	8		
	実績値	11	11	11			
達成度（％）	100.0%	100.0%	100.0%				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導非常勤講師の配置により、基礎基本の定着のために、個に応じたきめ細かな指導を充実させることができました。</li> <li>・外国人英語指導助手（ALT）の配置により、英語の授業を充実させることができました。</li> <li>・できるだけ多くの非常勤講師を各校に配置し、新指導要領に合った指導力の向上を図ることが必要です。</li> </ul>
----------	---

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の研修会を充実させ、非常勤講師の資質向上を図ります。</li> <li>・予算要求において、その必要性を示し、非常勤講師配置人数の適正配置を目指します。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導非常勤講師の配置によって、一人一人に寄り添った指導が充実してきています。</li> <li>・徐々に基礎的基本的な学力が身に付いてきています。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-2	教育情報化推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	Society5. 0の社会を生き抜くための必要な力を育てるため、1人1台タブレット端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育を推進します。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導・学種支援のためのICT環境整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット環境のない世帯に対するWi-Fiルーターの貸出等校内・校外でのICT環境づくりを継続して行いました。</li> <li>・ICT支援員を配置し、「情報教育」「教科指導におけるICT活用」「校務の情報化」の実現につなげることができました。</li> <li>・提示型を中心に授業でのICT活用を推進しました。</li> </ul> </li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費			3,118,500	5,593,000
② 人件費				675,000
③ 合計コスト ①+②	0	0	3,118,500	6,268,000
前年度比（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	201.0%
財源内訳	国・県支出金		1,559,000	0
	市債		0	0
	その他特定財源		0	0
	一般財源	0	0	1,559,500
④ 活動一単位当たりコスト	#DIV/0!	#DIV/0!	16,500.0	24,873.0
前年度比（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	150.7%
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）	令和4年度はICT環境整備の強化に伴い、ICT支援員の学校訪問回数を増やすため直接事業費及び人件費が増加する見込みです。			

(3) 活動指標	指標名	訪問回数			単位：	回
	指標説明	ICT支援員の学校訪問回数				
	実績値	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込	
				189	252	

(4) 成果指標	指標名	ICT活用授業割合		単位：	％	評価：	+
	指標説明	1週間の授業時間数におけるICTを活用した授業時間の割合					
	目標値の設定方針	1週間に児童生徒がタブレット端末を活用した授業時間数/1週間の総授業時間数×100					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	目標値			30	50		
	実績値			33.3			
達成度（％）	#DIV/0!	#DIV/0!	111.0%				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家庭で、ICT機器の安全な活用ができるように環境が整いました。</li> <li>・授業や学習面でのICT活用について、提示型活用場面や個別の知識・技能を高めるための活用場面で積極的な活用が見られるようになってきました。</li> <li>・ICT支援員の配置によって、児童生徒が情報活用能力等の情報に関する正しい知識や活用方法を身に付けることができています。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の考えをまとめる場面」や「仲間と考えを出し合い討論する場面」で、タブレット端末を積極的に活用する授業を推進して、思考力・判断力・表現力を高めます。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台のタブレット端末の使用によって、児童生徒の興味関心や主体性を促すような活用を推進していきます。</li> <li>・教師によるICT研修会を通して、ICTスキルアップの向上と指導の充実を図ります。</li> </ul>		
今後の方向性	1. 継続	（1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合）

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-3	子どもいきいき学校づくり事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	子どもたちに豊かな体験や経験をさせることを目指し、各学校において特色ある教育活動を実践します。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校ごとに特色ある教育活動の実践</li> <li>・地域の人材や特色を生かした教育実践をしました。</li> <li>・子どもたちの感性を引き出す教育実践をしました。</li> <li>・学校の教育力を高める取り組みを支援しました。</li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費	3,723,304	2,806,148	2,277,734	3,400,000
② 人件費	375,000	375,000	375,000	450,000
③ 合計コスト ①+②	4,098,304	3,181,148	2,652,734	3,850,000
前年度比（％）		77.6%	83.4%	145.1%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	4,098,304	3,181,148	2,652,734
④ 活動一単位当たりコスト	2,049,152.0	1,590,574.0	1,326,367.0	1,925,000.0
前年度比（％）		77.6%	83.4%	145.1%
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）	令和3年度に新型コロナウイルス感染拡大の影響で縮小実施し、令和4年度は直接事業費を多く見込んだことによりコストが大幅に増加しました。			

(3) 活動指標	指標名	特色ある教育活動計画の提出				単位：	回
	指標説明	活動計画・報告の提出回数					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	実績値	2	2	2	2		

(4) 成果指標	指標名	地域人材・素材を活用学校数		単位：	校	評価：	+
	指標説明	地域人材・素材を活用した特色ある教育活動を実施した学校数					
	目標値の設定方針	全学校で実施					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	目標値	7	7	7	7		
	実績値	7	7	7	7		
達成度（％）	100.0%	100.0%	100.0%				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のよさを感じ、地域人材の生き方に触れることで、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する子どもの育成に役立っています。</li> <li>・各学校の特色を生かした教育活動を行うために、それに適した地域人材を探す必要があります。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校に対し、長期的な見通しをもった地域人材の活用が図られるよう。指導者バンクの設置などを指導します。</li> <li>・地域の組織を生かした取り組みになるよう、働きかけていきます。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により、縮小して取り組まれました。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが地域の特色を生かした豊かな体験活動を行うことで、ふるさと美濃に対する思いを強くしています。</li> <li>・今後も本事業によって、学校及び校区の誇りとなる特色ある教育を推進します。</li> <li>・組織を生かしながら、地域人材の発掘と活用をさらに進めます。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	---------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-4	和紙教育振興事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	美濃市の伝統文化である美濃和紙づくりを体験させることで、児童生徒の美濃市への興味関心を高めるとともに、伝統ある美濃市を誇りに思う気持ちを育みます。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校4年生の紙漉き体験</li> <li>○小学校6年生、中学校3年生の卒業証書用和紙漉き</li> <li>○牧谷小学校における「和紙の里学校」としての和紙教育の推進</li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費	438,350	456,800	456,450	477,000
② 人件費	75,000	75,000	75,000	150,000
③ 合計コスト ①+②	513,350	531,800	531,450	627,000
前年度比（％）		103.6%	99.9%	118.0%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	513,350	531,800	531,450
④ 活動一単位当たりコスト	513,350.0	531,800.0	531,450.0	627,000.0
前年度比（％）		103.6%	99.9%	118.0%
⑤ コストに関する増減理由（R3年度実績、R4年度見込）				

(3) 活動指標	指標名	紙漉き体験回数				単位：	回
	指標説明	各校における小学校4, 6年生、中学校3年生の紙漉きの回数					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	実績値	1	1	1	1		

(4) 成果指標	指標名	紙漉き体験率				単位：	％	評価：	+
	指標説明	小学校4, 6年生、中学校3年生の紙漉き体験参加率							
	目標値の設定方針	全員参加							
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込				
	目標値	100	100	100	100				
	実績値	99	100	100					
達成度（％）	99.0%	100.0%	100.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
・紙漉き体験ができることで、児童生徒は美濃市の伝統文化に触れた喜びをもち、和紙やふるさとの関心を高めています。	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
・紙漉き体験と共に、ユネスコ無形文化遺産登録など本美濃紙についての知識面の学習に繋がっていきます。		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が美濃市の伝統文化の理解を深め、ふるさとの誇りをもつことに役立っています。</li> <li>・美濃市の小中学校の特色ある活動として、今後も継続していきます。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	---------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-5	コミュニティスクール推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	各校区の人材や地域のよさを活かした教育を行うとともに、地域とともに特色ある学校づくりを推進します。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和4年度に向けての学校運営協議会の設置</li> <li>・美濃市学校運営協議会設置等に関する規則を施行しました。</li> <li>・美濃市学校運営協議会委員候補者を推薦し、委員を決定しました。</li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費				883,500
② 人件費				300,000
③ 合計コスト ①+②	0	0	0	1,183,500
前年度比（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
財源内訳	国・県支出金			0
	市債			0
	その他特定財源			0
	一般財源	0	0	0
④ 活動一単位当たりコスト	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	42,267.9
前年度比（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
⑤ コストに関する増減理由（R3年度実績、R4年度見込）				

(3) 活動指標	指標名	学校運営協議会委員数			単位：	人
	指標説明	美濃市内の各校、各校区の学校運営協議会委員の数				
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込	
	実績値				28	

(4) 成果指標	指標名	学校運営協議会実施回数		単位：	回	評価：	+
	指標説明	各校の学校運営協議会が中心となって行った地域との活動の実施数					
	目標値の設定方針	令和7年度までに各校2回以上の実施					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	目標値			0	0		
	実績値			0			
達成度（％）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
・各学校や中学校校区から学校運営協議会委員が推薦され、委員を決定することができました。	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
・保護者や地域にコミュニティ・スクールの仕組みや取組について周知していきます。		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちを取り巻く課題を学校・保護者・地域が共有して、当事者意識により学校運営に参画できる協議会運営を進め、その支援を行っていきます。</li> <li>・学校運営協議会の協働による児童生徒のふるさと教育を充実させていきます。</li> </ul>		
今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-6	小中学校特別支援員設置事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	学習不応答や生活支援を必要とする児童・生徒に向け、特別支援員の活用状況を向上させます。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	○特別な支援を必要とする児童生徒の在籍学校へ特別支援員を配置 ・各学校において、特別な支援が必要な児童生徒を中心に特別支援員を配置し、一人一人の困り感に応じた支援など効果的に活用しました。

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費	18,547,846	20,563,000	22,318,951	23,909,000
② 人件費	300,000	300,000	525,000	450,000
③ 合計コスト ①+②	18,847,846	20,863,000	22,843,951	24,359,000
前年度比（％）		110.7%	109.5%	106.6%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	18,847,846	20,863,000	22,843,951
④ 活動一単位当たりコスト	753,913.8	834,520.0	913,758.0	974,360.0
前年度比（％）		110.7%	109.5%	106.6%
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）				

(3) 活動指標	指標名	特別支援員支援時間数				単位：	時間
	指標説明	週当たりの特別支援員の支援時間数					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	実績値	25	25	25	25		

(4) 成果指標	指標名	特別支援員配置人数				単位：	人	評価：	+
	指標説明	学校に配置する支援員の人数							
	目標値の設定方針	学校における要支援児童生徒の実態に応じた配置をする。							
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込				
	目標値	15	13	14	14				
	実績値	13	13	14					
達成度（％）	86.7%	100.0%	100.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を必要とする児童生徒に対して特別支援員が個別支援をすることで、学習に向かう姿勢が整ってきたり、学習内容の理解を深めたりしており、本人も周りも安心して学校生活を送ることができています。</li> <li>担任教師との連携がとられ、より効果的な全体指導につながっています。</li> <li>支援を必要とする児童生徒一人一人のニーズに対応できるように支援員の資質向上を図る必要があります。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの学校での個に対応した事例研修やICT機器を活用した支援に関する研修など、実践的で個に応じた支援の方法を学び、資質の向上を図ります。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援員が個別に支援することにより、支援を要する児童生徒の学習が充実しています。</li> <li>特別支援員の研修会を充実させ、特別支援員の資質の向上を図り、さらに効果を上げていきます。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	---------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-7	ほほえみ登校推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	学校生活での不応児・生徒の学校復帰をめざします。
------------	--------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	<p>1 適応指導教室 ・子どもたちの心の安定を図りながら、学校復帰のための支援を行いました。</p> <p>2 教育相談 ・不登校やいじめ、学習や生活習慣、親子関係等に関する様々な相談に対する活動を行いました。</p>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費	1,156,621	3,858,664	3,756,335	4,298,000
② 人件費	300,000	300,000	300,000	225,000
③ 合計コスト ①+②	1,456,621	4,158,664	4,056,335	4,523,000
前年度比（％）		285.5%	97.5%	111.5%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	1,456,621	4,158,664	4,056,335
④ 活動一単位当たりコスト	8,722.3	27,724.4	32,450.7	30,153.3
前年度比（％）		317.9%	117.0%	92.9%
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）				

(3) 活動指標	指標名	教育相談件数				単位：	件
	指標説明	児童・生徒、保護者および教職員からの相談件数（面談・電話相談等）					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	実績値	167	150	125	150		

(4) 成果指標	指標名	通室回数				単位：	回	評価：	—
	指標説明	ほほえみ教室へ通室した回数							
	目標値の設定方針	不登校生の教室復帰が目的のため、利用が少ないほど成果が上がっているといえます。							
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込				
	目標値	—	—	—	—				
	実績値	175	261	108					
達成度（％）	0.0%	0.0%	0.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>通室生が自己肯定感を体得できるように活動を実施し、徐々に登校できるようになってきました。</li> <li>ほほえみ教室指導員が各小中学校を訪問し、心の支援を必要とする児童生徒の実態把握に努めました。</li> <li>通室には保護者の送迎が必要となりますので、本人が希望しても保護者の送迎ができない場合への対応が必要です。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談コーディネーターや養護教諭とほほえみ教室指導員の連携を、さらに図るようにします。</li> <li>学校と連携しながら、家庭訪問を行い、保護者とのつながりを大切にします。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほほえみ教室通室生が自己肯定感を体得できるような体験活動を充実させます。</li> <li>今後もほほえみ教室指導員による学校訪問を通して、児童生徒との関係づくりを築き、学校との連携を図っていきます。</li> <li>保護者とのつながりをもてるよう、家庭訪問を行います。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	---------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-8	心の教室相談員設置事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	児童生徒の悩みやストレスの軽減にむけ、学校での相談対応率を向上させます。
------------	--------------------------------------

3. 事務事業の実績	<p>(1) 事業の実施内容（令和3年度）</p> <p>○小中学校への心の相談員の配置                  ・相談対象者の多い小中学校へ配置し、子どもたちの相談などをしました。                  ・学校職員との連携や、ほほえみ教室との連携により、教育相談体制の充実を図りました。                  ・相談員の資質向上のための研修会を実施しました。</p>
------------	---

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費	2,827,903	3,106,478	3,268,508	3,365,000
② 人件費	225,000	300,000	300,000	300,000
③ 合計コスト ①+②	3,052,903	3,406,478	3,568,508	3,665,000
前年度比（％）		111.6%	104.8%	102.7%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	3,052,903	3,406,478	3,568,508
④ 活動一単位当たりコスト	1,017,634.3	1,135,492.7	1,189,502.7	1,221,666.7
前年度比（％）		111.6%	104.8%	102.7%
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）				

(3) 活動指標	指標名	配置校数			単位：	校
	指標説明	心の相談員配置校数				
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込	
	実績値	3	3	3	3	

(4) 成果指標	指標名	相談活動時間数		単位：	時間	評価：	+
	指標説明	各校における週当たりの相談活動時間					
	目標値の設定方針	毎日4時間の相談活動の実施					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	目標値	20	20	20	20		
	実績値	20	20	20			
達成度（％）	100.0%	100.0%	100.0%				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	<p>・悩みがある子どもたちが心の相談員と話をすることで、心の安定を図ることができました。相談で得た情報をもとに、学校で体制を整えて子どもを支えることができました。そのため、教室に入りづらさを感じていた子ども足が向くようになりました。学習に対しても前向きに取り組んでいます。</p> <p>・スクールカウンセラー、スクール相談員などとの連携を、さらに強化する必要があります。</p>
----------	---

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
<p>・心の相談員研修会の充実を図り、他の担当者との連携を深めます。外部研修にも積極的に参加します。</p>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<p>・心の相談員の配置によって、教育相談の充実が図られています。今後も、心の相談員の配置を行い、それぞれの学校で児童生徒の心の安定や成長を支える体制を、さらに整えていきます。</p>		

今後の方向性	1. 継続	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )
--------	-------	-----------------------------



事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-9	夢わくわく体験事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	将来の夢の実現につながる質の高い体験活動を通して、一人一人の個性を伸ばします。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費				2,700,000
② 人件費				300,000
③ 合計コスト ①+②	0	0	0	3,000,000
前年度比（%）		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
財源内訳	国・県支出金			0
	市債			0
	その他特定財源			0
	一般財源	0	0	0
④ 活動一単位当たりコスト	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	500,000.0
前年度比（%）		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）				

(3) 活動指標	指標名	体験活動コース数			単位：	コース
	指標説明	児童が選択することのできる体験事業の参加コース数				
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込	
	実績値				6	

(4) 成果指標	指標名	参加人数			単位：	人	評価：	+
	指標説明	小学校6年生のうち、本事業に参加した児童数						
	目標値の設定方針	小学校6年生の50%以上の参加						
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込			
	目標値			0	30			
	実績値			0				
達成度（%）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!					

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	

6. 具体的な改善内容	改善時期

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
今後の方向性	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-10	美濃市士幌町体験交流事業 （士幌町フレンドシップ交流事業補助経費）	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	小学校6年生に豊かな農業体験活動を経験させることを目指します。
------------	---------------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	○新型コロナウイルス感染症拡大による感染防止対策のため、士幌町への訪問を中止としました。 ○令和4年度に向けて、事業目的の見直しや実現可能な方法等について検討しました。

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費	8,069,819	20,000	1,110	4,000,000
② 人件費	1,200,000	375,000	375,000	300,000
③ 合計コスト ①+②	9,269,819	395,000	376,110	4,300,000
前年度比（％）		4.3%	95.2%	1143.3%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	9,269,819	395,000	376,110
④ 活動一単位当たりコスト	9,269,819.0	#DIV/0!	#DIV/0!	4,300,000.0
前年度比（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）	令和3年度及び4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、本事業を中止としました。			

(3) 活動指標	指標名	全体参加説明会の実施				単位：	回
	指標説明	事業の意義やねらいの理解を深めるための参加説明会の実施					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	実績値	1	0	0	1		

(4) 成果指標	指標名	参加人数		単位：	人	評価：	+
	指標説明	小学校6年生のうち、士幌町訪問事業に参加した児童数					
	目標値の設定方針	小学校6年生の85%（以上）参加					
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込		
	目標値	145	0	0	40		
	実績値	99	0	0			
達成度（％）	68.3%	#DIV/0!	#DIV/0!				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
・新型コロナウイルス感染症対策のため、令和3年度と4年度を中止としました。事業目的を見直し、方法を検討する必要があります。	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
・本事業の目的と方法について見直し、令和4年度に「美濃市士幌町体験交流事業」として事業を進めます。		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
・児童には、とても貴重な体験の場となっていることから、今後も実現可能な方法を検討します。 ・これまでの経緯や現状を分析し、より効果的な体験活動となるように見直しを図っていきます。		
今後の方向性	1. 継続 <span style="margin-left: 100px;">（1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合）</span>	

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 3 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-11	人権教育推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	古川 克己
施策体系	総合計画上の施策名	16	学校教育の充実	
	施策名（評価単位）	(35)	学校教育の充実	

2. 事務事業の目的	人権への正しい理解と人権意識の高揚を育むために人権教育を推進します。
------------	------------------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和3年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域ぐるみの人権教育の推進及び啓発の推進に関する取組</li> <li>・市人権教育研究会 ・「私のメッセージ展」実施 ・資料集作成</li> <li>○人権教育における教職員の指導力向上をめざした実践研究に関する取組</li> <li>・学校人権教育部会 ・学校人権教育研究会</li> <li>・人権問題市民啓発講演会 ・美濃市人権教育実践資料集作成</li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込
① 直接事業費	469,200	470,000	394,000	420,000
② 人件費	375,000	375,000	375,000	225,000
③ 合計コスト ①+②	844,200	845,000	769,000	645,000
前年度比（％）		100.1%	91.0%	83.9%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	844,200	845,000	769,000
④ 活動一単位当たりコスト	515.7	516.5	480.0	408.7
前年度比（％）		100.2%	92.9%	85.2%
⑤ コストに関する増減理由 （R3年度実績、R4年度見込）				

(3) 活動指標	指標名	参加者数			単位：	人
	指標説明	「私のメッセージ展」への参加者数				
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込	
	実績値	1,637	1,636	1,602	1,578	

(4) 成果指標	指標名	「私のメッセージ展」への参加作品数			単位：	点	評価：	+
	指標説明	絵はがき、短冊等、園児・児童・生徒・一般によるメッセージ、標語、作文						
	目標値の設定方針	「私のメッセージ展」への参加						
		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度見込			
	目標値	1,375	1,364	1,340	1,360			
	実績値	1,334	1,177	1305				
達成度（％）	97.0%	86.3%	97.4%					

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や講演会を開催し、教職員の人権感覚を磨き、人権意識の高揚を図ることができました。</li> <li>・人権教育指導資料「同和問題学習」を活用した授業実践をしました。</li> <li>・各種授業公開がある中で、すべての授業で人権教育の観点を明確にしていますが、人権課題を直接取り扱う授業を増やしていきます。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和4年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美濃市幼保小中高人権連絡会における全学級授業公開において、人権についての知的理解に関わる授業を行うように指導します。</li> <li>・人権教育指導資料「同和問題学習」を活用した授業実践をさらに充実させるよう働きかけます。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の研修を実施するとともに、各学校の実践を資料にまとめ交流し、市全体として指導力向上を図っています。今後も、人権教育の成果を発信しつつ、地域ぐるみの人権教育を推進していきます。</li> <li>・各校の人権教育担当が中心となって、人権教育に関わる校内研修を充実させるように働きかけます。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	---------------------------